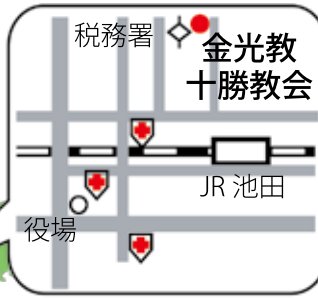


No.85, 2020, Apr.,

4月・記念祭奉迎祈願祭号

TEL 015-572-2322
FAX 015-572-4213

いけだ

金光教十勝教会
〒083-0001 池田町旭町1-9Facebook「金光教十勝教会」
<http://kontoka.webcrow.jp>

十勝教会 だより 85



Facebook



教会 HP (PC)



金光教公式 HP



渡辺丑五郎先生

「ここに金光教の教会をつくらなければならぬ」
今から約百年前、池田町近辺（当時は河合村）に住んでいた金光教の信者さんたちの一致した願いでした。

○

当時、十勝に金光教の教会はありません。池田の信者さんたちは、札幌で布教されていた渡辺丑五郎先生（元・気仙沼教会長）の教会の信者さんだったのです。ところがその渡辺先生が病に倒れ、大正七年にお亡くなりになります。

ここに金光教の教会を作らねばならない

金光教十勝教会

当時は今のようには医療も発達していませんし、農業も近代化されていません。不便な開拓地に住んでいる人々にしてみれば、病気を治すのも、冷害や天災が起きても今のようないきいきとした救済措置は望めませんでした。

周りに頼るものがない、頼れるのは自分だけ、そんな中でたまたま近くに住んでいた金光教の信者さんから、「信心すれば助けてもらえる」と聞いて、遠く札幌の渡辺先生の教会に御縁をいただいた人たちがいました。その人たちは、実際に先生のお取次を通じ一心に神様におすがりすることで、ある人は怪我や病気から救われ、ある人は作物の収穫にもおかげを受けるなど、実際に神様に助けられていたのです。

つまり、当時の信者さんたちにとって渡辺先生の教会は、病院や化学肥料のように生活や仕事になくてはならない

いものだったのです。

あるご信者さんは晩年の渡辺先生に「先生がお亡くなりになったら十勝の信者はどうなってしまうのでしょうか?」と尋ねたそうです。それだけ十勝の信者さんたちにとっては渡辺先生が必要であり、それだけ先生のお取次を通じて神様のおかげを受けてきたということなのでしょう。

○

その渡辺先生が亡くなってしまいました。さらに悪いことに先生には跡継ぎがいません。結局、渡辺先生の教会は無くなってしまいます。当然困ったのは信者さんです。が、その信者さんたちを救ったのもまた渡辺先生でした。

「十勝の信者の玉置藤太が後継者である。やがて金光教の教会で御用をするようにすれば私の神徳をやるから心配するな。それまでの間は私が霊となって守ってやる」

これは十勝の信者さんたちに向けた渡辺先生の遺言のようなものです。

これを聞いた信者さんたちが、「あの渡辺先生がそう仰るのだから」、「例えば先生がお亡くなりになっても、金光教の教会を作れば、渡辺先生の時と同じように神様のおかげが受けられる。助けてもらえるぞ」となっても不思議ではないように思えます。

○

渡辺先生が亡くなった翌年、十勝の信者さんたちは、教会を作る準備を兼ね、「修徳会」という会を作り自分たちで布教活動をはじめます。そこでも新たな信者さんが生まれ、その数が増えてゆきました。

「これほど神様に助けて欲しいという人がいるのであるから」、「やはりこの地に教会を作らなければいけない」とみなさん思いを強くされたのではないのでしょうか。

かくして、信者さんのたちの協議の末、渡辺先生の遺言もあり、当初固辞していた玉置藤太さんが本部へ修行へ行かれ、金光教の教師となります。そして大正九年「金光教十勝小教會所」

の設立となるのでした。

それから百年、今でもこの地に金光



初代教会長玉置藤太先生
当初、金光教の教師に
なそう固辞していた
のを固辞して
うです。(明治42年)

教の教会があります。時代も社会も大きく変わり、医療も科学技術も進歩し、便利な世の中になりました。しかし私たちの心配事が無くなったかというところなことはなく、病気や経済、人間関係、災害は言うに及ばず、交通事故や育児放棄、ネット犯罪などかえって今の方が心配の種は多いかもしれません。そんな色んな心配やストレスを抱えている私たちを見て、百年前の信者さんたちはこう言っているでしょう「せっかく俺たちが作った教会があるんだから、俺たちみたいに信心して神様に助けてもらえばいいじゃない」

教会日誌 令和元年12月29日から令和2年4月5日まで

12月29日 幕別町、K社、工場神舎奉祭式。
12月31日 越年感謝祭。



写真 令和元年 越年感謝祭

令和元年の大晦日、この日は氷点下にもかかわらず朝はまさかの「雨」。道路も境内もツルツルに。それでもお昼までにはなんとか溶けて無事にお祭りが出来ました。



令和2年
1月1日 元日祭。



写真 令和2年 元日祭

令和になって最初の元日。穏やかなお正月となりました。今年で教会設立100年。設立認可は8月なので、十勝に金光教の教会ができて99回目のお正月を参拝者みなでお祝いしました



写真 令和2年新年会
 今年は信徒会総会のみ出席する人が多く、少しさみしい新年会になりました。
 信徒会総会では昨今の状況をかえりみて、今までの信徒会のあり方を見直し、「金光教十勝教会やつなみ会」として再出発することになりました(後述)。

- 1月2日 帯広市、M家・K家・A家、合同年頭感謝祭。
- 1月3日 池田町、M家、年頭感謝祭。
- 1月4日 士幌町、K家、年頭感謝祭。
- 1月5日 薫別講社年頭祭。
- 1月12日 帯広市、M家葬儀式、13日まで。
- 1月19日 帯広市、M家、旬日祭。
- 1月31日 帯広市、M家、旬日祭。
- 1月31日 札幌市、T家、I社、A社、B社合同年頭感謝祭・交通安全祈願祭。
- 2月9日 信徒会総会、教会新年会。



写真 春季霊祭
 次のページにも

- 2月11日 信徒会を発展解消し「十勝教会やつなみ会」が発足。
- 2月23日 帯広市、M家、五十日祭・合祀祭。
- 3月14日 足寄町、T家、式年祭。
- 3月20日 春季霊祭。
- 3月30日 札幌市、I家、式年祭。
- 4月4日 勸学祭。
- 4月5日 薫別講社天地金乃神大祭

教会の霊殿にお祈りしている祖霊の皆様には、戦争や大
 冷害、大きな災害を経験されてきた方が多くおられます。
 そういう方々は、「明日はどうなるのだろうか?」という
 不安の中を生き抜いてこられました。その皆さんは信心を
 通じて神様のお•か•げを受け、生きる力をいただいて助かっ
 てこられたのです。

今私たちを取り巻くコロナウイルスのことはとても心配

今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、「体調に不安のある
 方は遙拝するか、時間をずらして参拝してください」とのお願い
 をしていましたので、祭典に参拝された方はいつもの半分ほどで
 した。それでも時間外に参拝された方や手紙参拝の方も多くいらっ
 しゃいましたので、霊様にはいつもと変わらないお礼の真心をお
 供えできたと思います。ただしいつもの祭典後の「ボタモチ」を
 いただいたのお茶会ができなかったのは残念です。

写真 令和2年新年会



教会のチャリティ・コーナーに
 手作り布製マスクが登場しまし
 た。1枚100円です。



写真 薫別講社天地金乃神大祭
 道内にいくつかあった講社も今は
 この薫別を残すのみ。その薫別も
 今年布教100年！を迎えました。



写真 勧学祭

コロナウイルスをはじめ様々な
 問題があるなかで、子供たちが
 安心して新学期を迎えられるよ
 う祈願させていただきました。

です。心配だからこそ、先人の皆さんを見習い、神様に願っ
 て、「和賀心」で私たちを生かし支えてくださる神様のお
 か•げを受け、そのおかげに応え、自信を持って安心の生
 活を送らせていただきましょう。

(霊祭後の教話より抜粋)



やつなみ (八波)
金光教の教紋

「やつなみ (八波)」とは、金光教の教紋です (教祖様の家紋でもあります)。「やつなみ会」は金光教のシンボルを名前にいただいています。つまり「この会の会員一人ひとりが金光教である」とい

「金光教十勝教会・やつなみ会」の発足について
すでにお知らせしていますが、金光教十勝教会「信徒会」がこの2月11日をもって解散し、新たに「金光教十勝教会・やつなみ会」が発足しました。
旧信徒会は、教会在籍の信者さんたちが教会の維持管理、信心共励、交流懇親を目的として結成した団体です。
しかし十勝教会は信奉者の多くが教会から離れた地域に点在していること、会員の高齢化などから、近年は信徒会の行事に参加される方、運営に携わることのできる方が少なくなり、従来のような会の運営をすることが難しくなっていました。
ただし、教会の維持管理、信心共励、交流懇親のためには同様の「会」は残さなければならぬということから、教会長の御取次のもと、現状に合わせ、より柔軟に、信者さんと教会長・教師が一体となって運営にあたる新しい組織「金光教十勝教会・やつなみ会」を発足させることになりました。

COVID-19 十勝教会のコロナウイルス対応について

緊急事態宣言を受け、宣言期間中に執行される祭典については遙拝か時間をずらして参拝されますようお願いいたします。

教会設立 100 年記念祭はコロナウイルス感染拡大を受け当初予定を延期いたします。

※詳細は追ってご案内します

これからの教会祭典 行事予定

- ・境内清掃 5月30日(土) 10時
- ・境内清掃 6月28日(日) 10時
- ・上半期感謝祭 6月28日(日) 13時30分
- ・その都度ご案内をします
- ・記念祭の準備は延期します

う願いがこめられています。
巻頭言にもありましたが、百年前、教会長も信者さんとも関係なく、みなが一つ心となつて、神様に助けていただくために「ここに広前を作ろう」と尽力されていました。その皆さんのいのちと志を受け継ぐ私たちも、力を合わせ、神様に助けていただけるよう、この広前を守り共に信心を進めていきましょう。
(やつなみ会運営委員一同)